

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 松涛会	代表者	齋藤 妙子	法人・事業所の特徴	利用者一人ひとりの人権を尊重し、住み慣れた地域での生活を継続することができるよう、地域住民との交流や地域活動への参加を図りつつ、利用者の心身の状況、希望及びその置かれている環境を踏まえて、通いのサービス、訪問サービス及び宿泊サービスを柔軟に組み合わせることにより、地域での暮らしを支援します。
事業所名	小規模多機能 杜の宮	管理者	村岡 和佳		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	3人	人	1人	1人	人	2人	人	8人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	・個々のニーズに合わせた計画を作成し、職員間で共有しケアの統一を図る。	職員間で情報の共有を図ろうとしているのが分かった。	特になし。	家族等の了解を得て、本人に関する方や施設・民生委員・薬局・病院や地域包括センター・相談員・ケアマネジャー等から本人の情報を頂く。
B. 事業所のしつらえ・環境	・自治会の行事（一日喫茶）で施設説明を行う。 ・自治会の回覧板にパンフレット・日常の雰囲気や伝わる通信を入れて地域住民に発信する。	施設の説明やイメージがあると良い。	立地条件や敷地内外の環境は好印象である。苑庭には四季折々の草花や木々がある。 安岡八幡宮や小中学校があり、運動会や学習発表会・案山子コンクール・季節の行事に参加している。	・安岡自治会の1日喫茶で事業所紹介をする機会を頂く。(10分程度) ・差し障りのないパンフレットを自治会の回覧に入れさせて頂く。
C. 事業所と地域のかかわり	・小学校や地域・子供会との交流を継続する。 ・自治会の回覧板にパンフレット・日常の雰囲気や伝わる通信を入れて地域住民に発信する。	5/26 (日) 3名参加(運動会) 6/29 (土) 事業所にて茶話会 子供会(大人6名・子供10名) 11/17 (日) 4名参加(学習発表会) 12/14 (土) 事業所にて茶話会 子供会(大人5名・子供11名)	・パンフレットを入れるまでもなく、自治会の1日喫茶で事業所紹介で充分なのでは？ ・回覧は10数種類があるので、見ない人が多いから効果的ではない。	・小学校や地域・子供会との交流を継続する。 ・安岡自治会の1日喫茶で事業所紹介をする機会を頂く。(10分程度) ・差し障りのないパンフレットを自治会の回覧に入れさせて頂く。
D. 地域に向いて本人の暮らしを支える取組み	・各時代の写真や、情景が思い出せるような写真を用意して会話の材料にする。 (家族・知人や職員の協力を仰ぐ)	自宅外観の写真は分からない方が多かった。 地域の店や神社・風景写真などを用意しレクリエーションや会話の材料とした。地域名や神社・自然については印象に残っている部分もあり会話が広がっているように感じた。	・外出機会が少ない中であれば1つの手段となる。 ・職員が用意するには限りがあるから、家族に頼んで撮ってもらったら良いのでは？ ・興味を持てるような写真であれば良いけど、縁も所縁もないような物では意味を成さない。	外出行事の日は人員体制を整えて事前に希望を確認し、ドライブ・外食に個別対応(1回に2～3人程度)で計画する。 外出行事に参加希望のない方には、収集した写真を活用した回想法や情景が浮かぶように雰囲気づくりをする。(会話やレクリエーション)
E. 運営推進会議を活かした取組み	・直近の転倒・事故報告や事例報告を会議の議題に入れる。	活動内容や月毎の報告(転倒・事故報告も含む)を行っている。	・職員の均一的なレベル向上につながるなら良い。 ・万遍なく参加できる環境を考えていく事が、ボトムアップになるのでは。	令和元年度に外部研修へ参加していない職員を対象に、2人以上参加出来る様に管理者が年度初めに計画を立てる。(参加可能な人員体制が取れば随時参加を促す)
F. 事業所の防災・災害対策	事業所の避難訓練や、地域の防災訓練に相互で参加し協働体制が図れるように努める。	避難訓練(9/18・12/10) 安岡地域防災机上訓練(12/7)	・職員連絡網の中に、主だった地域の方の連絡先を記載しています。 ・案山子コンクールの表彰式(1月下旬)に自治体の炊き出し訓練を兼ねて行います。 ・災害発生時の避難場所や有事の際には助けて下さい。反対の立場だったら協力します。	・事業所の避難訓練や、地域の防災訓練に相互で参加し協働体制が図れるように努める。